

モスピラン® 粒剤

MOSPILAN

登録番号 第19114号
 種類名 アセタミプリド粒剤
 acetamiprid
 殺虫剤分類 4A
 性状 淡灰色細粒
 有効年限 5年

有効成分 アセタミプリド 2.0%
 毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 包装 1kg×12袋、3kg×6袋

■特 長

- セル苗に対し育苗期後半の株元処理が可能で、省力的です。
- 定植時の土壌処理により、コナガ・アオムシ・アブラムシ・スリップスの発生を長期間抑えます。
- ミツバチ・マルハナバチに対して影響が少ない薬剤です。
- 粒剤タイプなので有用昆虫に対する影響が少ない薬剤です。



最新の登録内容、
SDSはこちら

■適用害虫名及び使用方法

(2024年1月17日現在)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数	使用方法
キャベツ	コナガ、アオムシ	1～2g/株	定植時	1回	6回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計5回以内〕	植穴土壌混和
	コナガ、アオムシ アブラムシ類	0.5～1g/株	定植前日～定植当日			株元散布
	ハイマダラノメイガ ハスモンヨトウ	0.5g/株				
	アブラムシ類	1～2g/株				
非結球メキャベツ	ハイマダラノメイガ	1g/株	定植時		3回以内 〔土壌混和は1回以内、散布は2回以内〕	植穴土壌混和
はくさい	コナガ、アオムシ アブラムシ類	0.5g/株	定植前日～定植当日	1回	4回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内〕	株元散布
	ハイマダラノメイガ					
だいこん 非結球あぶらな科 葉菜類 〔チンゲンサイを除外〕	コナガ アブラムシ類	3kg/10a	は種時		1回	播溝土壌混和
チンゲンサイ	キスジノミハムシ	0.5g/株	定植当日	1回	2回以内 〔粒剤の処理は1回以内、散布は1回以内〕	株元散布
	アオムシ		定植前日～定植当日			
	コナガ、 アブラムシ類		は種時			播溝土壌混和
ひこしまはるな	アブラムシ類	1g/株			1回	
ブロッコリー	コナガ	1～2g/株	定植時	1回	4回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内〕	植穴土壌混和
	アオムシ アブラムシ類	1g/株				
	ハイマダラノメイガ	0.5g/株	定植前日～定植当日			株元散布
	コナガ、アオムシ アブラムシ類	0.5～1g/株				

殺 虫 剤 モスピラン粒剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数	使用方法		
カリフラワー	コナガ、アオムシ	0.5～1g/株	定植前日～定植当日	1回	4回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内〕	株元散布		
きゅうり	アブラムシ類		定植時					
かぼちゃ		0.5g/株	定植後、 但し 収穫30日 前まで				3回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内〕	植穴土壌混和
とうがらし類 (ししとうを除く)	1g/株	定植時	2回以内 〔定植時の土壌混和は1回以内〕					播溝土壌混和
ししとう	0.5g/株	定植時					3回以内 〔定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内〕	植穴土壌混和
ピーマン	コガネムシ類幼虫	1g/株	定植前日～定植当日					3回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計2回以内〕
	アブラムシ類	0.5g/株						
なす	アブラムシ類	0.5～1g/株	定植時				4回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内〕	株元散布
	コナジラミ類							
	コガネムシ類幼虫 ミナミキイロアザミウマ	1g/株						
すいか	アブラムシ類	0.5～1g/株	定植前日～定植当日	3回以内	株元散布			
	コナジラミ類	1g/株						
トマト ミニトマト	アブラムシ類	0.5g/株	生育期但し、 収穫前日まで	1回	3回以内 〔粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計2回以内〕	株元散布		
	コナジラミ類 トマトハモグリバエ アブラムシ類	1g/株	定植時					
	コナジラミ類 コガネムシ類幼虫	1g/株	定植時					
いちご	アブラムシ類	0.5～1g/株	生育期 (定植30日後まで)但し、 マルチ被覆直前まで	1回	3回以内 〔粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計2回以内〕	株元散布		
		0.5g/株	定植時					
	0.5～1g/株	植穴土壌混和						
	コナジラミ類 コガネムシ類幼虫		1g/株					

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数	使用方法
レタス	ナモグリバエ オオタバコガ ヨトウムシ	0.5g/株	定植前日～ 定植当日	1 回	4 回以内 〔粒剤の株元散布は 1 回以内、散布は 3 回以内〕	株元散布
	アブラムシ類	0.25～0.5 g/株				
非結球レタス	ナモグリバエ オオタバコガ ヨトウムシ	0.5g/株	2 回以内 〔粒剤の株元散布は 1 回以内、散布は 1 回以内〕			
ばれいしょ	アブラムシ類	3～6 kg/10a	植付時		4 回以内 〔植付時の土壌混和は 1 回以内、植付後は 3 回以内〕	植溝土壌混和
わけぎ あさつき		6kg/10a	は種時		4 回以内 〔土壌混和は1回以内、 散布は3回以内〕	播溝土壌混和
			植付時			植溝土壌混和
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	0.25～0.5 g/株	定植前日～ 定植当日		3 回以内 〔は種時の土壌混和 は1回以内、植付時 の土壌混和及び 定植当日までの株元 散布は合計1回以内〕	株元散布
			は種時			播溝土壌混和
		植付時	6kg/10a			植溝土壌混和
ぶどう	ブドウネアブラムシ 〔但し、 6kg/10a以下〕	30g/m ² 但し、 6kg/10a以下	収穫14日 前まで		3 回以内	樹冠下 または主幹 周辺に散布
かんきつ (苗木)	アブラムシ類 ミカンハモグリガ	10～20 g/樹	育苗期	1 回	株元散布	
えだまめ	アブラムシ類	3kg/10a	は種時	4 回以内 〔は種時または定植時 の土壌混和は合計1回 以内、散布は3回以内〕	播溝土壌混和	
		1g/株	定植時		植穴土壌混和	
ふき	モモアカアブラムシ コナジラミ類	2g/株	収穫90日 前まで	3 回以内 〔粒剤の株元散布は 1 回以内、散布及び くん煙は合計2回以内〕	株元散布	
こんにやく	ワタアブラムシ	3kg/10a	培土時(出芽期)	1 回	株元土壌混和	
セルリー	アブラムシ類 ナモグリバエ	0.5g/株	定植時	1 回	2 回以内 〔定植時の土壌混和 は1回以内〕	植穴土壌混和
さといも	アブラムシ類	3～6 kg/10a	植付時	1 回	1 回	植溝土壌混和
ストック	ハイマダラノメイガ	0.5g/株	育苗期	5 回以内	株元散布 植穴土壌混和 植溝土壌混和	
きく	アブラムシ類	0.5～1g/株	生育初期			
	アザミウマ類	1g/株	定植時			
	ハモグリバエ類					
	ミカンキイロアザミウマ	3～6 kg/10a	発生初期			
つつじ類	ツツジグンバイ	3～6 kg/10a	発生初期	5 回以内 (樹幹注入は1回以内)	株元散布	
たばこ	アブラムシ類	0.5～1 g/株	定植時	1 回		3 回以内 (定植後は2回以内)
		0.25g/株	育苗期後半			

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ秤量し、使い切ってください。
2. キャベツ、ブロッコリー、非結球あぶらな科葉菜類、セルリーに使用する場合は、薬害発生のおそれがあるので使用量を厳守し、根に直接ふれぬよう、施用後土壌とよく混和してから植付けてください。
3. かんきつに用いる場合は、今期に収穫見込みのない苗木に対して株元処理し、処理後は軽く散水してください。なお、本剤を処理してから効果を発揮するまでにある程度期間を要するため、対象害虫の発生前に予防的に処理してください。
4. かぼちゃに対して、は種時に播溝土壌混和で使用する場合は、栽植密度に合わせ播溝に株当たり1gに相当する量を均一に施用した後土壌混和してください。
5. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
6. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
7. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意 

8. 使用の際は、農薬用マスクなどを着用してください。作業後はうがいをしてください。
9. 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

治療法：本剤の中毒に対しては、動物実験で、L-メチオニン製剤、グリチルリチン製剤及びグルタチオン製剤の注射投与が有効であるとする報告もあります。

水産動植物への影響：水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

○空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

【農薬をご使用の際は】

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には、使用しないでください。
- 小児の手の届く所には、置かないでください。
- 空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。